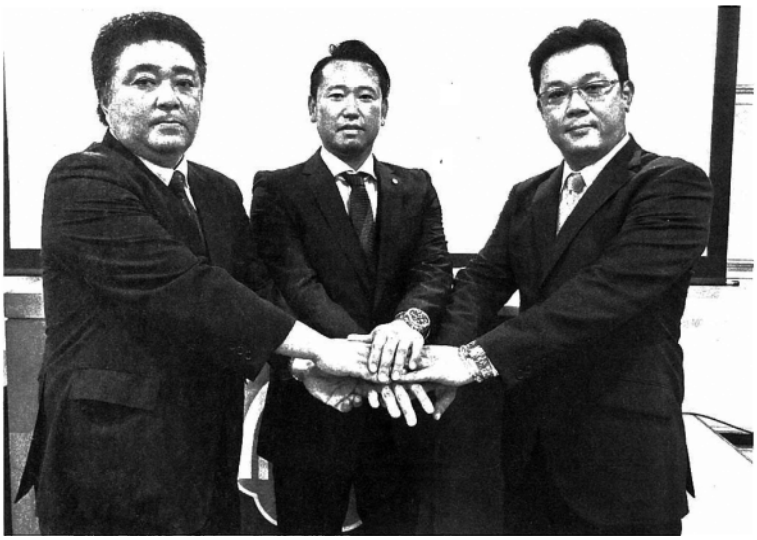
3団体で異業種交流会実施

各団体青年部会長に聞く

三重県産業廃棄物協会青年部会、三重県トラック協会青年部会、三重県建設業協会四日市支部青年部会の3団体青年部による異業種交流会が先月25日、三重県四日市市の四日市文化会館で開催された。今回の交流会は三重県産廃協青年部の呼びかけで実現したもので、産廃協会とトラック協会の異業種交流などは他の地域でも一部行われているが、建設業協会を含めた3団体による開催は全国でもまだ珍しい。産廃協会青年部会会長の光友裕昭氏、トラック協会青年部会会長の辻定氏、建設業協会四日市支部青年部会会長の川村靖氏に、今回の異業種交流会の趣旨や今後について聞いた。（4面参照、黒岩彦修）



左から辻定氏、光友裕昭氏、川村靖氏

三重県産業廃棄物協会
青年部会会長（吉野興産専務）
光友 裕昭 氏

三重県トラック協会
青年部会会長（辻運送専務）
辻 定 氏

三重県建設業協会四日市支部
青年部会会長（穂積建設社長）
川村 靖 氏

まずはコミュニケーション 深め、今後の可能性に期待

――今回の異業種交流会開催の経緯は。

光友　今回は産廃協会の主催ということで声掛けさせていただいたが、トラック協会、建設業協会とも青年部ということで同じ悩みを抱えている部分が多いのではないかと感じていた。われわれも産廃協会としてさまざまな事業に取り組んできたが、発足から14年程の年月が経過しマンネリ化してきた面があり、参加者も減少してきた。全国的にも青年部メンバーが減ってきていると聞いているし、産廃協会だけで事業に取り組んでも限界があると感じていた。今回参加する3団体は燃料の高騰や若手の人材確保など同じ悩みを抱えているので、お互いに話を聞いて情報交換することで、今後に少しでもつながっていけば良いと思い、交流会開催に至った。

――開催の意義についてどう感じているか。

川村　建設業界で言うと、以前は四日市、津といった地域ごとの交流はあったが、三重県全体で次期経営者が集まるという機会はほとんどなかった。それが青年部ができて、若手が集まって交流の場を深め、それぞれの地域が抱えている問題を共有し知恵を出し合うということが行われるようになった。さらに今回産廃協会から異業種交流という話をいただいたが、本来産廃協会と建設業協会というのはもっと密接に交流をしていなければならない団体であったので、非常に良い機会であると感じて参加させていただいた。トラック協会についても同様だ。

辻　トラック協会も全日本トラック協会を中心に、業界としては活発に活動しているところだ。三重県でもさまざまな活動を行ってきたが、県単位で考えた場合われわれに向けてそれぞれが独自に努力しているので、それを知る事はお互いプラスになるだろう。

――各業界青年部で注力していることは。

光友　産廃協会では以前は内向けの勉強会などが多かったが、2年前くらいからは外向けの環境物流業だけではなく、比較的似ている業種であり、会社を運営していくに際しての諸問題が近い産廃業界や建設業界と意見交換を活発に行えるようになるのは意義があることだ。今回産廃協会が中心となっていただき初の開催となったが、これを2回、3回と続けて行けるようになれば良いと考えている。似ている業界ではあるが諸問題解決学習などにも力を入れるようになっており、県が主催するこどもエコフェアに出展したり県の環境学習イベントに参加するといった取り組みも積極的に進めている。産廃協会はまだまだ一般には知名度が低いので、もっともっと対外的にアピールしていかなければならないと考えている。

川村　建設業協会は対外的な活動としてはボランティア活動などに取り組んでいる。建設業協会も一般の人たちにはそれほど知名度は高くないので、知名度を上げていく必要がある。現在の活動としては、やはり建設業界は行政の求めることに対して適切に対応していくことが前提となるので、そのための勉強会などを行っている。また、三重県全体での交流会を各支部持ち回りで実施している。

辻　会員のさらなるレベルアップを図り、年3回「青年塾」という勉強会を開催し、運送業に関することや労務に関することなどさまざまなことを学んでいる。オープン参加にしているので、この勉強会に参加して青年部に加盟するという方もいる。比較的現実に即した内容にし、それを斬新な切り口で勉強するような形になっている。また、他県との交流会も年2回程度開催している。なるべく多くの会員が参加できるよう、開催の時間帯などを工夫して行っている。

――今後の異業種交流に期待することは。

光友　今回は役員懇談会、勉強会、懇親会のメニューを用意したが、まずは皆さんに参加してもらいコミュニケーションを取ってもらうことを主眼に置いた。今後については今回の参加者の意見を聞きながら考えていきたいが、今回限りでは終わらせたくない。これからも3団体で何か一緒にできれば良いと思っている。

辻　まずは交流を図ることができたということが大きい。これをきっかけにそれぞれがこれまで見えなかったものが見えてくるだろう。そして、われわれの3業種が県の事業の中で主流となっているのだということを、改めてアピールしていきたい。

川村　今回は四日市支部での参加となったが、ゆくゆくは三重県全体の建設業協会で交流を図って行けると良いと思っている。そのためにはまずは四日市支部が2団体としっかりとコミュニケーションを図って行くことが重要だ